



AICHI MEDICAL UNIVERSITY Graduate School of Nursing 2027

愛知医科大学大学院 [修士課程]
看護学研究科 [博士後期課程]



愛知医科大学大学院 看護学

～常に新たな看護のあり方を探究し

愛知医科大学大学院看護学研究科は、高度専門職業人にふさわしい看護実践者として、これからの看護研究・教育・管理に貢献できる人材を育成するために2004年4月に修士課程を開設しました。

その後、2007年度に感染看護学領域において高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースを開設し、2015年10月には高度実践看護師(診療看護師[NP])コースにおいて、看護師特定行為研修制度の研修機関として厚生労働省から指定(38行為21区分)を受けるなど着実に発展を遂げ、更なる看護学の発展に寄与する人材の育成を行っています。

研究科長あいさつ



Message from the Dean

研究科長
若杉 里実
WAKASUGI Satomi

愛知医科大学大学院看護学研究科は2004年に開設し、2026年3月までに211名の修了生を送り出しました。このうち診療看護師コースは、2023年度に10周年を迎え、57名の修了生を送り出しております。修了生たちは全国各地から来ており、修了後は実践者・管理者・教育者として活躍をしています。

社会情勢が複雑に変化し将来の予測が困難な時代になりつつある中、看護専門職者に求められる場は拡大し、役割は多様化してきており、様々な課題を実感しながら実践に取り組んでおられることと思います。

本研究科では、実践家である皆さんが日常の看護実践で気になっている現象を紐解くことから始めます。自らの体験を語り、自分自身の考えを整理し、理論や先行研究との関連を議論し合い、研究手法を用いて研究を実施し、論文にまとめていくというプロセスを通して、大学院でこそ身につけることが期待されている「高度な専門的知識」「普遍的なスキル」「様々な場面で応用可能な能力」を自律的に学修してみませんか。

本研究科は、社会人として働きながら大学院に通う院生が多いため、夜間開講や長期履修制度等、学びやすい教育環境を整えています。さらに、2025年4月からは、看護学研究科博士後期課程として、PhDとDNPの2コースを開設いたしました。看護学研究科修士課程から博士後期課程まで学修を継続し、キャリアアップにつなげることができる質の高い教育の充実を目指していきます。皆様のご入学を心からお待ちしております。

	修士論文コース	高度実践看護師コース	
修士課程	2年間(長期履修制度では3年間)で研究の基礎を学び修士論文を書き上げます。10の多彩な専攻領域を設置し、看護実践者としての研究能力の向上と看護教育・管理に貢献できる教育を行います。	CNSコース 感染予防ケアと感染管理を実践する専門看護師を育成します。	NPコース 診療とケアを統合した高度実践看護を実践することができる診療看護師(NP)を育成します。
博士後期課程	PhDコース	DNPコース	
	3年間(長期履修は4年間)で、看護学の高い専門知識をもち、学術性を探究する研究者・教育者を育成する教育を行います。研究テーマを深めて博士論文に取り組みます。	3年間(長期履修は4年間)で、看護実践の質の改善や組織変革等を実現させる実践家の博士号を取得できる教育を行います。看護実践の場で行うプロジェクト研究に取り組みます。	

研究科 修士課程・博士後期課程

創造していく人材を育成します～

2025年4月には博士後期課程を開設し、看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者を育成するPhDコースに加え、高度な看護の実践者・管理者となる人材を育成するDNPコースを設置しました。修士課程において高められた専門性に加えて、常に新たな看護のあり方を探究し創造できる人材を育成していきます。

修士課程

博士後期課程

教育理念

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点を加味した看護学を教授し、卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践看護者を育成するとともに、研究・教育を通して看護学の発展に寄与する。

看護学研究者として自立して研究活動を行うための高度な研究能力とその基盤となる豊かな学識を、また、看護実践の探究者としての高度な実践能力とそれを裏づける豊かな学識を培うことを通して、看護学・看護実践の発展に寄与する。

教育目標

1. 高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成する。
2. 看護の質向上に寄与する研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成する。
3. 国際的視野を持って、看護・看護学を探究しつづける人材を育成する。
4. 看護学の学問的発展に寄与できる研究者・教育者を育成する。



【PhDコース】

1. 自立した専門職者として高度な研究能力を有し、グローバルかつ学際的に看護学を探究し続ける人材を育成する。
2. 看護学を探究し、看護学の学術性を深めていく能力を有した人材を育成する。
3. 看護学研究を主導し牽引していくことのできる研究者・教育者となる人材を育成する。

【DNPコース】

1. 高度看護実践者として卓越した知識・技能をもち、看護実践の質向上・変革を推進することのできる人材を育成する。
2. 高度看護実践者として実装的研究を推進するために必要な研究能力を有する人材を育成する。
3. 実装的研究を実現していくことのできる人材を育成する。

学位

修士（看護学）

博士（看護学）

募集人数

15名

4名

担当教員研究内容一覧

教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野	専攻領域	コース	
基礎看護学	基礎看護学	修士論文	
	看護管理学		
母子看護学	母性看護学		
	小児看護学		
成人・老年看護学	慢性看護学		
精神・在宅・地域看護学	精神看護学		
	在宅看護学		
	地域看護学		
高度実践看護学	感染看護学		修士論文
			高度実践看護師(専門看護師[CNS])
	臨床実践看護学	修士論文	
		高度実践看護師(診療看護師[NP])	

担当教員研究内容一覧



基礎看護学領域

篠田 かおる 教授

- 看護技術の根拠となる形態機能に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 感染予防教育に関する研究



看護管理学領域

山中 真 教授

- 転倒外傷予防
- 看護師の実践技術の量的評価



看護管理学領域

山本 恵美子 教授

- 組織の安全文化構築に向けた教育開発に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 卒前・卒後の一貫した医療安全教育に関する研究



小児看護学領域

茂本 咲子 教授

- 子どもと家族を主体としたケアに関する研究
- 子どもと家族の相互作用を支える看護に関する研究
- 低出生体重児の継続看護に関する研究



慢性看護学領域

谷口 千枝 教授

- 行動変容に関連する心理・社会的要因の分析
- 禁煙行動に関する疫学研究
- レセプトデータを用いた疾病と生活習慣との関連分析



精神看護学領域

心光 世津子 教授

- 精神科病棟看護における自己決定支援に関する学際的研究
- 精神障害からの回復・リカバリーに関する研究
- セルフヘルプ・グループやピアサポートに関する研究



在宅看護学領域

佐々木 裕子 教授

- 在宅ターミナルケアに関する研究
- 小児在宅ケアに関する研究
- 地域・在宅ケアで取り組む災害対策と要配慮者支援に関する研究
- 在宅看護教育に関する研究



地域看護学領域

坂本 真理子 特命教授

- 地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
- 保健師の歴史研究



地域看護学領域

若杉 里実 教授

- 地域看護活動に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究
- 地域看護学教育に関する研究



臨床実践看護学領域

泉 雅之 教授

- 医療コミュニケーションに関する研究、認知症の臨床



母性看護学領域

山本 弘江 准教授

- 夫婦に対する産後うつ病の早期発見とスクリーニングに関する研究
- 子育て期の家族のメンタルヘルスに関する支援の検討
- 親の育児ストレスに関する研究



慢性看護学領域

森 莉那 准教授

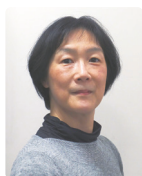
- がん患者の治療と社会生活の両立支援に関する研究
- 慢性的の病いをもつ人々のセルフマネジメント支援に関する研究
- 外来看護に関する研究



感染看護学領域

青山 恵美 准教授

- 医療関連感染予防に関する研究
- 感染管理、感染症看護に関する研究
- 結核感染予防に関する研究



感染看護学領域

長崎 由紀子 准教授

- 感染予防・感染症看護に関する研究
- 高齢者施設における感染予防に関する研究
- 感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師に関する研究



臨床実践看護学領域

黒澤 昌洋 准教授

- 診療看護師(NP)・看護師特定行為実践に関する研究



臨床実践看護学領域

橋本 茜 准教授

- クリティカルケア看護に関する研究
- 災害看護に関する研究
- ケアリングに関する研究

基礎看護学領域

山幡 朗子 准教授

- 看護職の臨床能力に関する研究
- 看護技術に関する研究

在宅看護学領域

白井 裕子 准教授

- 在宅における看護支援に関する研究
- 在宅看護教育に関する研究
- 生活困窮者の生活・健康支援に関する研究

修士論文コース

各分野の第一人者を講師として招き、幅広く専門的な看護学を教授

修士論文コースは、10の多彩な専攻領域を設置し、看護実践者の研究能力の向上と看護教育・管理に貢献できる看護職者の質的向上をめざした教育を行っています。働きながら学修を続けることができるよう、平日の夜間や土曜日などに開講しています。

カリキュラム

授業科目	配当 年次	単位数		修得すべき 単位数
		必修	選択	
現象学的看護学	1		2	当該指導教員と相談して選択(計14単位以上) 必修以外から
看護理論	1	2		
看護倫理	1	2		
看護教育論	1		2	
看護管理論	1		2	
看護研究方法論Ⅰ	1	2		
看護研究方法論Ⅱ	1		2	
コンサルテーション論	1		2	
看護政策論	1		2	
国際看護学	1		2	
英語文献講読	1	2		
基礎統計学演習	1		1	

授業科目	配当 年次	単位数		修得すべき 単位数
		必修	選択	
基礎看護学特論Ⅰ	1		2	(1) 専攻領域の講義科目4単位 (2) 専攻領域の演習科目4単位
基礎看護学特論Ⅱ	1		2	
基礎看護学演習	1		4	
看護管理学特論Ⅰ	1		2	
看護管理学特論Ⅱ	1		2	
看護管理学演習	1		4	
母性看護学特論Ⅰ	1		2	
母性看護学特論Ⅱ	2		2	
母性看護学演習	1		4	
小児看護学特論Ⅰ	1		2	
小児看護学特論Ⅱ	1		2	
小児看護学演習	1		4	
慢性看護学特論Ⅰ	1		2	
慢性看護学特論Ⅱ	1		2	
慢性看護学演習	1		4	
精神看護学特論Ⅰ	1		2	
精神看護学特論Ⅱ	2		2	
精神看護学演習	1		4	
在宅看護学特論Ⅰ	1		2	
在宅看護学特論Ⅱ	1		2	
在宅看護学演習	1		4	
地域看護学特論Ⅰ	1		2	
地域看護学特論Ⅱ	1		2	
地域看護学演習	1		4	
感染看護学特論Ⅰ	1		2	
感染看護学特論Ⅱ	1		2	
感染看護学演習	1		4	
特別研究(修士論文)	2		8	

現場での経験を確認な知見に変え、次世代が輝ける組織を作っていきたい

| Senior Message

看護管理学領域 修士論文コース **三久保 聡司さん** 第2学年

長年、看護の現場で研鑽を積んできましたが、変わりゆく医療現場の課題に向き合う中で、経験を裏打ちする理論的な学びの必要性を強く感じ大学院に入学しました。現在は看護管理学を専攻し、現場での意思決定や組織運営のあり方を学問的視点から捉え直しています。多忙な業務との両立は容易ではありませんが、異なる背景を持つ院生との議論は、自身のマネジメント観を柔軟にアップデートする貴重な刺激となっています。

卒業後は、この学びを組織の活性化や後進の育成に還元していくことが目標です。理論と実践を融合させ、スタッフが意欲を持って働き、質の高いケアを継続できる体制づくりに貢献したいと考えています。



高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース

感染看護学分野の高度実践看護師を育成

感染看護学領域は、専門看護師教育機関として認定を受けており、修了者は公益社団法人日本看護協会が実施する専門看護師認定審査（感染症看護）の受験資格が得られます。

教育方針

高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースは、対象のクオリティ・オブ・ライフの向上を目的として、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使し、個人・家族・集団・地域に対して、卓越した感染予防ケアと感染管理を実践する高度実践看護師の育成を目指します。

課題研究では、医療関連施設における感染症患者及び易感染患者のケア、感染症に伴う倫理的問題への介入、施設及び地域における感染管理活動、災害時の感染防止、感染症集団発生時の疫学調査と感染拡大防止対策などについて探求し、感染看護学の発展と看護の質向上に寄与しうる研究論文の作成を目指します。



カリキュラム

	授業科目	単位数	修得すべき単位数
共通科目名	看護理論	2	8単位以上
	看護倫理	2	
	看護教育論	2	
	看護管理論	2	
	看護研究方法論Ⅰ	2	
	コンサルテーション論	2	
	看護政策論	2	
	フィジカルアセスメント	2	6単位
	臨床薬理学	2	
	病態生理学	2	

	授業科目	単位数	修得すべき単位数
専門科目名	感染看護学特論Ⅰ	2	18単位
	感染看護学特論Ⅱ	2	
	感染看護学特論Ⅲ	2	
	感染看護学特論Ⅳ	2	
	感染看護学特論Ⅴ	2	
	感染看護学演習Ⅰ	4	10単位
	感染看護学演習Ⅱ	4	
	感染看護学実習Ⅰ	3	
	感染看護学実習Ⅱ	4	
	感染看護学実習Ⅲ	3	
課題研究	4	4単位	

合計：46単位以上

今後は大学院での学びを活かし、看護の臨床現場の課題を、研究的視点をもって解決できるようになりたい

| Senior Message

感染看護学領域 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース 平工 加奈子さん 第2学年

私はこれまで病院内で感染管理業務に従事してきました。その経験の中で、感染症の看護の視点が不足していると痛感したことが大学院進学のかっけです。CNSコースでは、感染症学・微生物学の専門家の先生方の講義を拝聴でき、少人数での受講であるため疑問を解決しながら学ぶことができます。また、感染症看護専門看護師の諸先輩方々の講義も多数あり、実践的な講義内容は資格取得後の活動イメージを具体的に考える機会となっています。就業しながらの進学であるため、講義や研究の時間を確保することは大変です。しかし、講義、先生方や院生間でのディスカッションは、これまでの看護を理論づけて考え直す貴重な時間となっています。



高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース

診療看護師（NP）とは

病気を診断し治療を行うナース・プラクティショナーという看護師が海外では活躍しています。この役割の一部を担う看護師が診療看護師（NP）です。診療看護師（NP）とは、「患者のQOL向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師」です。愛知医科大学大学院看護学研究科では、日本NP教育大学院協議会の養成教育カリキュラムに基づき、診療看護師（NP）の養成を行っています。

診療看護師（NP）の特徴とは

診療看護師（NP）は、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を実践することができる看護師です。特徴的な違いとして、これまでの看護学の知識・技術に加えて、医学的な視点を学ぶことによって、病気の診断技術と治療管理技術を修得します。加えて、厚生労働省「看護師の特定行為に係る研修制度」を通じて、38行為21区分の特定行為研修を行っています。



本学の特徴

■ 看護学を基盤とした高度実践看護の探求

本学は、看護学を基盤とした高度実践看護の探求を重視しています。共通科目である「看護理論」や「看護倫理」、専門科目の「高度実践看護特論」を通して、診療看護師（NP）が実践する高度実践看護の本質を言語化することを目指しています。また、診療看護師（NP）資格を有する専任教員や、臨床で活躍する診療看護師（NP）、さらに諸外国のナース・プラクティショナーによる講義を通して、臨床実践能力の向上を目指すことができます。

■ 医学部併設の強みを活かした医学的知識・技術の修得

医学部併設の利点を活かし、薬理学や生理学などの基礎医学に関する科目については、医学部と同等の教育を受けることができます。また、臨床経験豊富な大学病院の医師による講義を通して、症状の判断や治療に必要な知識・技術を体系的に学ぶことができます。

■ クリティカルケアとプライマリケアを統合したカリキュラム

2026年のNP資格認定試験より、従来のクリティカル領域、プライマリ領域（成人・老年）、プライマリ領域（小児）の3資格が統合されました。本学はこれに先駆け、成人・老年に加え小児も含めたクリティカルケアとプライマリケアを統合したカリキュラムを構築しています。これにより、両領域の知識と技術を体系的に修得することが可能です。

看護と医学の視点を統合し、より良い看護を提供するために

| Senior Message

臨床実践看護学領域 高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース 亀本 加奈子さん 第2学年

私は慢性期、急性期病棟、ERで経験を積んだのち、本大学院へ進学いたしました。本コースを選択した理由は、看護理論をはじめとした看護学への理解を深めるカリキュラムがあること、そして医学的視点を学ぶことにより、質の高い看護実践につながると考え、本コースを希望いたしました。

大学院では講義形式による知識のインプットだけでなく、臨床推論やシミュレーション教育など、知識と実践の融合により、思考過程を深めることができます。他大学の学生との交流や多職種による講義、診療看護師（NP）として活躍されている方々の演習など、毎日の授業が刺激的で、自分の目指す姿に大きく影響しています。

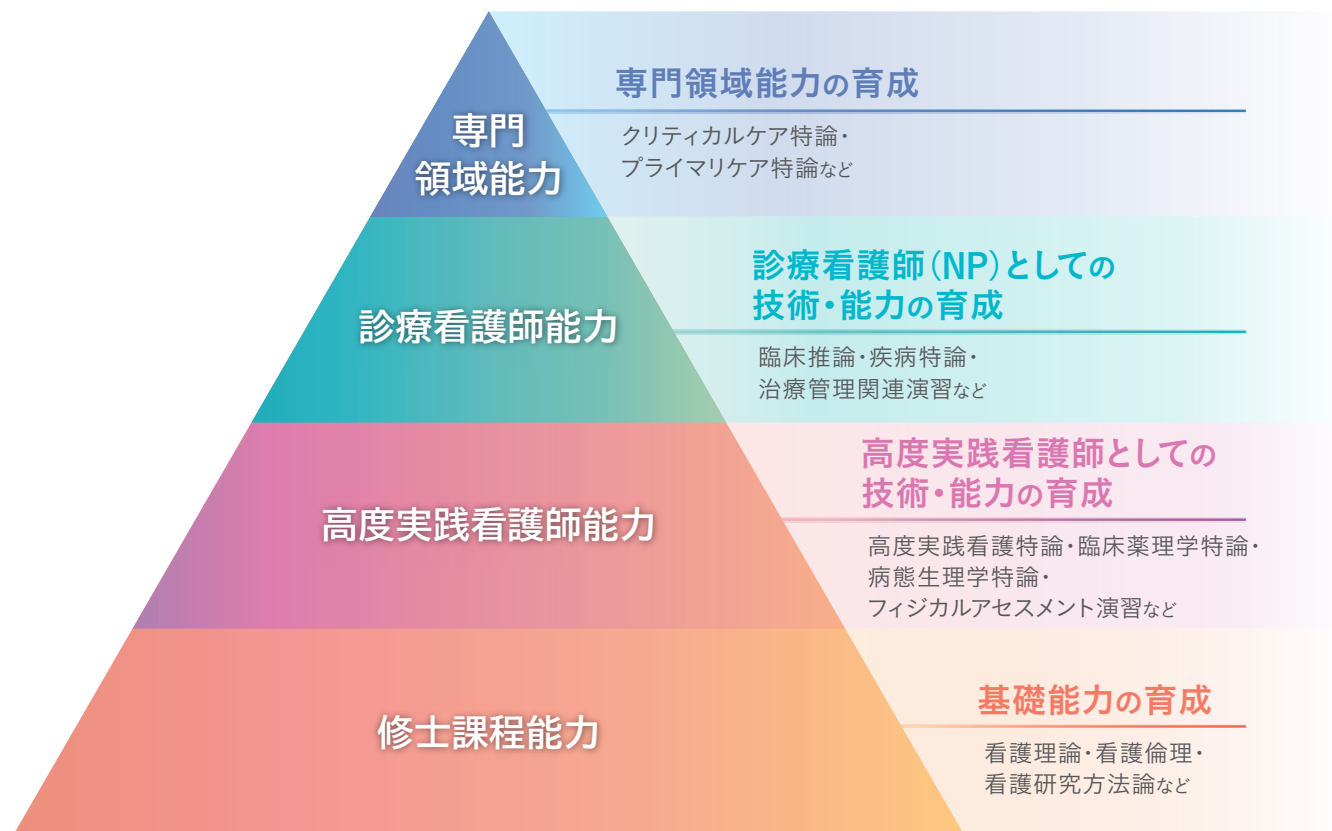
修了後は大学院での学びを活かし、患者さんや家族の方々により良いケアを提供できるよう、チーム医療の要となる存在を目指し、精進して参ります。



高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース

カリキュラムの特徴

諸外国の高度実践看護師養成教育モデルを参考に、段階的に、系統化された教育を積むことで看護学修士としての看護の視点を伸ばしつつ、診療看護師(NP)として必要な知識・技術を修得することが可能です。加えて、クリティカルケアとプライマリケアの統合カリキュラムによって、より専門性を深めた教育を自身のキャリアプランに沿って学ぶことが出来ます。



充実した学習・実習環境

診療看護師[NP]コースでは、専用の演習室を備えています。気管挿管、動脈穿刺、縫合シミュレーターや超音波診断装置も常備されています。シミュレーションセンターでは、高機能シミュレーターを用いて、シミュレーションを行っています。

学修は、ICTを活用した学修支援システムにより、自宅でも文献検索やレポートの提出ができ、社会人が学修しやすい支援を行っています。大学院生には、子育てをしながら進学する方も多くなっています。

実習は、愛知医科大学病院だけでなく、地域の中核病院、在宅診療専門クリニック、山間部や離島などのへき地の診療所などでも実習を行い、高度先進医療から地域医療まで幅広い対応が可能な診療看護師(NP)の育成を目的としています。



カリキュラム

授業科目		単位数	修得すべき単位数
共通科目	看護理論	2	計10単位以上
	看護倫理	2	
	看護研究方法論Ⅰ	2	
	英語文献講読	2	
	看護教育論,看護管理論,コンサルテーション論,看護政策論(選択)	2	
専門科目	高度実践看護特論	2	計58単位
	チーム医療・看護管理特論	2	
	保健医療福祉システム特論	2	
	臨床薬理学特論	3	
	病態生理学特論	5	
	疾病特論	3	
	臨床推論	3	
	フィジカルアセスメント演習	2	
	呼吸器・循環器治療のための実践演習	4	
	ドレーン管理のための実践演習	2	
	疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	3	
	疾病と治療 薬物治療Ⅰ	3	
	疾病と治療 薬物治療Ⅱ	3	
	人体構造演習	1	
NP実習	20		
選択科目	クリティカルケア特論(選択)	2	計2単位以上
	プライマリケア特論(選択)	2	
課題研究	課題研究	4	計4単位

※診療看護師[NP]コースの専門科目における講義および実習は、昼間に実施されます。

合計：74単位

愛知医科大学奨学金制度

高度実践看護師(診療看護師[NP])コース修了後に、愛知医科大学病院に診療看護師(NP)として業務に従事することを希望する学生については、奨学金を受けることができます。

奨学金の月額等

奨学金額(月額)	貸与期間	貸与総額	返還免除までに要する期間
200,000円	24か月	4,800,000円	48か月

※1 奨学生の選考は、入学後に実施します。(数名程度)

2 次の場合は、奨学金を一括返還いただきます。

- ・課程修了しなかった場合
- ・課程修了後、愛知医科大学病院に就職しなかった場合

3 愛知医科大学病院で勤務した月数に応じ、次により計算して得た額の返還債務を免除します。

貸与を受けた額÷返還債務免除までに要する期間×勤務した期間

教育訓練給付金(専門実践教育訓練給付金)

高度実践看護師(高度実践看護師(診療看護師[NP]))コースは、厚生労働大臣より、教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定を受けています。一定の条件を満たせば、2年間で最大112万円の給付が受けられます。

※専門実践教育訓練給付金の制度等の詳細につきましては、ハローワークや厚生労働省のWebページも併せて必ずご確認ください。

大学院で学んだ知見や課題を解決する力を、感染看護の知識の普及へつなげていきたい



日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院
感染看護学領域
高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース

林 瑞穂さん

2025年3月修了

私は、COVID-19専用病棟での勤務時、COVID-19に対する不安や疑問を多く感じ、一緒に働く同僚が支えとなっていました。その経験を通して、感染看護を学びたいと考え進学しました。

大学院では、専門の先生方の講義や実習を通して新たな知見を得ることができました。また、同級生や先輩方、他領域の院生たちとの交流では視野を広げることができ、現在でも交流し情報交換を続けています。

COVID-19に関する課題研究では、COVID-19パンデミック初期の医療機関の状況を知ることができ、自身の勤務中の疑問や葛藤を解決することができました。また、私が勤務する感染管理室の課題について深く考える機会となり、現在の院内感染対策に活用しています。

今後は、大学院で学んだ知見や課題を解決する力を、感染管理室で感染看護の知識の普及につなげていきたいと考えています。

現場の問いを研究へ



愛知医科大学看護学部
教員
在宅看護学領域
修士論文コース

曾 雌 哲也さん

2026年3月修了

私は、訪問看護ステーションの管理者として療養者や家族と向き合う中で、日々の実践の背後にある課題や構造について深く考えるようになりました。現場で感じる疑問や葛藤を経験の範囲にとどめるのではなく、学術的に捉え直し、在宅看護の実践に還元したいと考え大学院に進学しました。

大学院では、研究を通して物事を多角的・構造的に捉える視点を養うとともに、他分野の院生との議論を通じて多様な価値観や思考に触れることができました。臨床の経験から生まれる問いを研究として深めていく過程は、在宅看護をより広い視点から理解する貴重な機会となりました。

今後は、臨床で培った実践知と大学院で得た学術的視点を結びつけ、在宅看護の実践と教育・研究をつなぐ役割を担っていききたいと考えています。

診療看護師(NP)として看護の本質と倫理を軸に、超高齢社会に伝える実践力を培う



医療法人徳洲会
松原徳洲会病院
臨床実践看護学領域
高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

西村 浩一さん

2026年3月修了

本研究科では、診療看護師(NP)として高度な臨床実践力を磨くだけでなく、常に「看護とは何か」を問い続ける姿勢を、机上・臨地実習・研究を通し学びました。医療的判断を行う立場であっても、その根底には生活を支える看護の視点と倫理的配慮が不可欠であることを深く実感しました。また、プライマリ領域とクリティカル領域の双方を体系的に学べる環境は、複雑な併存疾患を抱える超高齢社会のニーズに合致していると感じています。

今後は、科学的根拠と倫理観を両立させながら、地域から急性期まで切れ目なく支えられる診療看護師(NP)として貢献していきたいと考えています。

診療看護師(NP)としての臨床判断力と多職種連携を高め、患者と家族に寄り添いながら、最善な医療の提供に向けて



愛知医科大学病院
臨床実践看護学領域
高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

山下 葉月さん

2026年3月修了

本コースでの学びを通して、診療看護師(NP)に求められる臨床判断力や多職種連携の重要性を実感し、患者の状態を医学的に的確に評価し、迅速に対応する力に加え、患者だけでなくその家族の思いや背景にも目を向けながら関わることの大切さを学びました。さらに、多職種と連携しながらチームで最善の医療を提供する中で、診療看護師(NP)が果たす役割の大きさを実感しました。

今後は、これらの学びを現場で活かし、患者とその家族に寄り添いながら、一人ひとりにとって最善の医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう配慮しています。

また、2015年度入学生からは職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。

[修士課程]

社会人比率	2026年度入学者	13名中13名(100%) [長期履修制度を利用する学生:0名]
	2025年度入学者	14名中14名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]
	2024年度入学者	15名中15名(100%) [長期履修制度を利用する学生:4名]
	2023年度入学者	15名中15名(100%) [長期履修制度を利用する学生:0名]

研究指導体制

本研究科における指導体制は、少人数で個別的な指導を行うことを旨としています。このため、初学者であっても確実に研究のプロセスを学習しつつ、論文を作成できる体制を取っています。



特別講義

看護の展望や看護の探求心、知的好奇心を育成するとともに、看護職者としての意識の改革、看護に対する関心への動機付けを狙いとして、年に数回開講しています。



修了生へのサポート

本研究科では、修了生に対してのフォローアップ、キャリアサポートを目的とし『看護学部同窓会』を設置しています。『看護学部同窓会』では専用のメーリングリストを作成し、本研究科で開催するイベントの情報を発信したり、研究科担当教員及び修了生相互の情報交換の場として運用されています。



科目等履修生制度

科目等履修制度は、本研究科において開講している授業科目の「単位修得」を目的として入学する制度です。本研究科において履修した科目は試験等で総合的に判断し、単位を認定します。認定された単位は、15単位を限度として、入学後に単位を認定することができます。

職業実践力育成プログラム (BP)

「職業実践力育成プログラム」(BP)とは、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。

本研究科高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは平成30年度に、高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースは令和元年度に認定されました。



愛知医科大学看護学部 博士課程 設立趣旨

愛知医科大学は、創立20周年記念事業の一環として、既存の修士課程や専門看護師コースの発展形として、2025年に博士後期課程のPhD（看護学博士）コースとDNP（看護実践博士）コースを同時に開設しました。この新たな取り組みは、日本の看護学教育において高いレベルで学術研究と臨床実践の両面を支援することを目指しています。

特に、修士課程で培った教育や卒後教育の実績を活用し、教育・研究・臨床を統合することで、「愛知医科大学の看護」の独自性を確立することを追求します。

PhDコースでは看護学の理論と学術研究の発展を、DNPコースでは看護実践の質向上と臨床現場での実証的研究の展開を重視し、理論と実践の両面から国際的視野を持つ看護専門職者の育成を目指します。

これらの取り組みは、看護の質の向上に向けて、看護学の理論と実践を相互補完し、現場で活用可能な研究成果を創出することで、看護学の発展に貢献します。



教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野	専攻領域	コース
基盤看護学	基礎看護学	PhDコース及び DNPコース
	精神看護学	
	感染看護学	
成育・療養支援看護学	母子看護学	
	成人看護学	
	老年看護学	
包括・実践看護学	地域看護学	
	在宅看護学	
	高度実践看護学	

担当教員研究内容一覧



基礎看護学領域

高橋 照子 特命教授

- 看護実践の理論的解明
- 科学史における看護学の位置づけ
- パースイ理論と看護実践



基礎看護学領域

山中 真 教授

- 転倒外傷予防
- 看護師の実践技術の量的評価



基礎看護学領域

山本 恵美子 教授

- 組織の安全文化構築に向けた教育開発に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 卒前・卒後の一貫した医療安全教育に関する研究



精神看護学領域

心光 世津子 教授

- 精神科病棟看護における自己決定支援に関する学際的研究
- 精神障害からの回復・リカバリーに関する研究
- セルフヘルプ・グループやピアサポートに関する研究



感染看護学領域

矢野 久子 特命教授

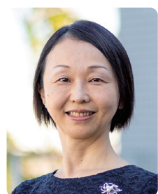
- 医療関連感染予防に関する研究
- 感染管理、感染症看護に関する研究



感染看護学領域

青山 恵美 准教授

- 医療関連感染予防に関する研究
- 感染管理、感染症看護に関する研究
- 結核感染予防に関する研究



母子看護学領域

茂本 咲子 教授

- 子どもと家族を主体としたケアに関する研究
- 子どもと家族の相互作用を支える看護に関する研究
- 低出生体重児の継続看護に関する研究



母子看護学領域

山本 弘江 准教授

- 夫婦に対する産後うつ病の早期発見とスクリーニングに関する研究
- 子育て期の家族のメンタルヘルスに関する支援の検討
- 親の育児ストレスに関する研究



成人看護学領域

谷口 千枝 教授

- 行動変容に関連する心理・社会的要因の分析
- 禁煙行動に関する疫学研究
- レセプトデータを用いた疾病と生活習慣との関連分析



老年看護学領域

勝野 とわ子 特命教授

- 認知症家族介護者の健康を支えるケアプログラム開発
- 高齢者・認知症者のQOLを支えるケア開発
- 高齢者へのACP支援
- 看護現象の概念分析



地域看護学領域

若杉 里実 教授

- 地域看護活動に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究
- 地域看護学教育に関する研究



地域看護学領域

坂本 真理子 特命教授

- 地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
- 保健師の歴史研究



高度実践看護学領域

松尾 ミヨ子 特命教授

- 慢性呼吸器疾患患者の長期療養における自己管理アドヒアランスの研究
- 卒後教育におけるフィジカルアセスメントに関する研究
- 高度実践看護におけるエビデンスの活用について



高度実践看護学領域

黒澤 昌洋 准教授

- 診療看護師(NP)・看護師特定行為実践に関する研究

博士後期課程 PhDコース

PhDとは

看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する「(学術)看護学博士(PhD(Doctor of Philosophy in Nursing)コース)」です。

次のような人材の育制を目指しています

- 自立した専門職者として高度な研究能力を有し、グローバルかつ学際的に看護学を探究し続けることができる
- 看護学を探究し、看護学の学術性を深めていく能力を有している
- 看護学研究を主導し牽引していくことのできる研究者・教育者としての能力を有している

カリキュラム

共通科目	配当年次	単位数		修得すべき単位数
		必修	選択	
看護科学哲学	1春	2		必修 4単位 選択科目 2単位以上
看護学研究方法論	1春	2		
高等社会統計学	1秋		2	
看護教育学特論	1秋		2	

春:春学期 秋:秋学期

専門科目	配当年次	単位数		修得すべき単位数
		必修	選択	
基礎看護学特論	1春	2		12単位以上
基礎看護学演習	1秋	2		
精神看護学特論	1春	2		
精神看護学演習	1秋	2		
感染看護学特論	1春	2		
感染看護学演習	1秋	2		
母子看護学特論	1春	2		
母子看護学演習	1秋	2		
成人看護学特論	1春	2		
成人看護学演習	1秋	2		
老年看護学特論	1春	2		
老年看護学演習	1秋	2		
地域看護学特論	1春	2		
地域看護学演習	1秋	2		
在宅看護学特論	1春	2		
在宅看護学演習	1秋	2		
高度実践看護学特論	1春	2		
高度実践看護学演習	1秋	2		
看護学特別研究	1~3	8		



慢性の病いとともに生活する人の思いをより深く理解し、
研究や教育に活かしたい

| Senior Message

成人看護学領域 PhDコース

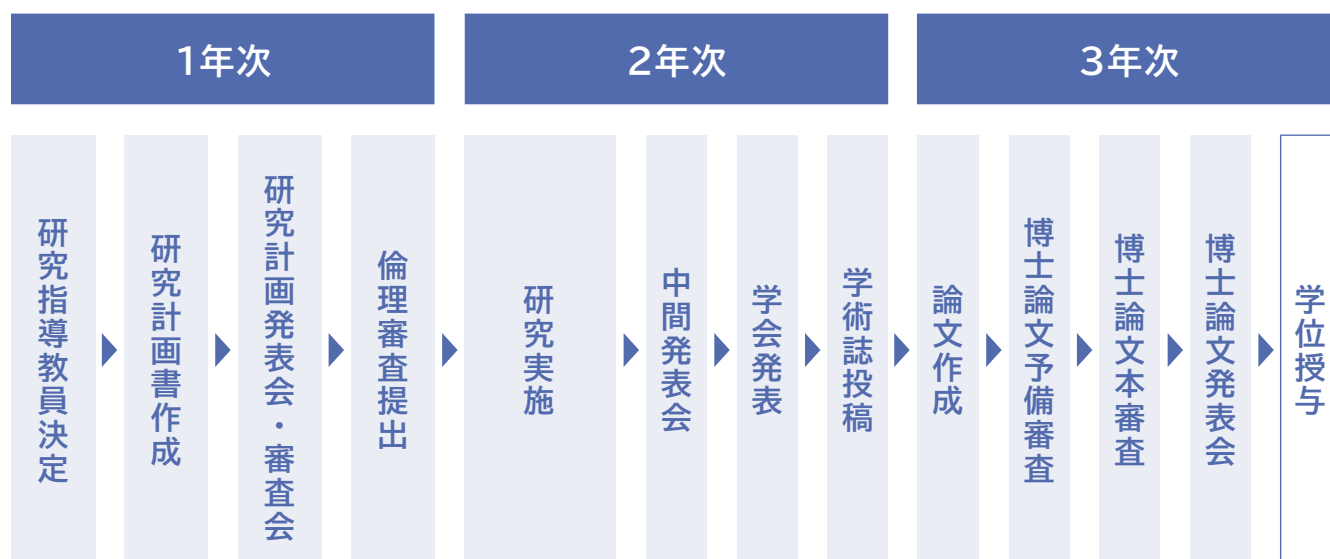
中村 恵理さん 第1学年

学生の実習指導を通して慢性の病いとともに生活する人と向き合う中で、治療や生活を自ら調整しながら日々を送る姿に触れ、その思いや工夫をどこまで理解できているのかと考えるようになりました。退院後、セルフマネジメントが思うように続かなくなる現実を前に、その人の生活の中で無理なく続けていくためには、どのような支援が必要なのかを改めて考えたいと思うようになりました。経験だけに頼るのではなく、理論や研究に基づいて捉え直し、継続できる支援のあり方について考えたいと思うようになり、博士後期課程への進学を決意しました。

今後は慢性の病いとともに生活する人を支える看護について探究し、その成果を教育と実践に活かしていきたいと考えています。



学位取得までの論文作成スケジュール（修業年限3年）



修了要件

博士後期課程に3年以上在籍し、所定の単位（18単位以上）を取得し、かつ必要な研究指導の下、研究計画審査および研究倫理審査を経て、論文審査および最終試験に合格すること

博士後期課程の3年間は人生を彩る貴重な経験となる

谷口 千枝 教授

博士後期課程PhDコースでは、博士論文を書き上げるための研究のデザインやその手法について指導教員や副指導教員とともに3年間（長期履修制度では4年間）をかけて深く学ぶコースになります。

修士課程と比べて自主性をさらに重ねることがあるのでとても大変と感じることは多いと思います。ただ、この3年間で得られる研究への理解と粘り強さは、その後の皆さんの人生を彩る貴重なものになるはずですよ。

自らの経験を振り返ると、博士課程の期間は仕事と家庭、学業との両立にくじけそうになることも幾度となくありました。ただ、それを支えてくれる教員や仲間と出会えたということも私にとって貴重な財産となっています。

ぜひ、一人ではなくみんなでがんばる！と思って、この機会を大変な中でも楽しみながら過ごしていただければと思っています。私たち教員は緑の下の力持ちとして、皆さんの3年間をずっと応援サポートします！



博士後期課程で研究的思考と実践力を次のステージへ

心光 世津子 教授

2025年度に開設された博士後期課程では、大学や臨床のさまざまな現場で活動する大学院生が、研究をスタートしています。

本学の特徴の一つは、併設する大学病院との密接な連携にあります。加えて、開講領域の多さやPhDコースとDNPコースの双方を有していることから、看護実践に根差した研究を志す、多様な背景の大学院生が在籍しています。

博士後期課程での研究は、修士課程以上に独創性が求められます。思うように進まない場面に直面することもあるかもしれませんが、そうしたときには、本学では、専門や関心の異なる仲間や教員との対話を通して、研究を多角的に見つめ直し、深めていくことができます。

図書館の文献データベースが非常に充実しており、学外からも円滑にアクセスできる点も本学の大きな強みです。働きながら精力的に研究に取り組む先輩たちの姿は、これから進学を考える皆さんにとって、身近なロールモデルとなるはずです。

本学の博士後期課程で、研究的思考と実践力をさらに磨き、次のステージへ進んでみませんか。



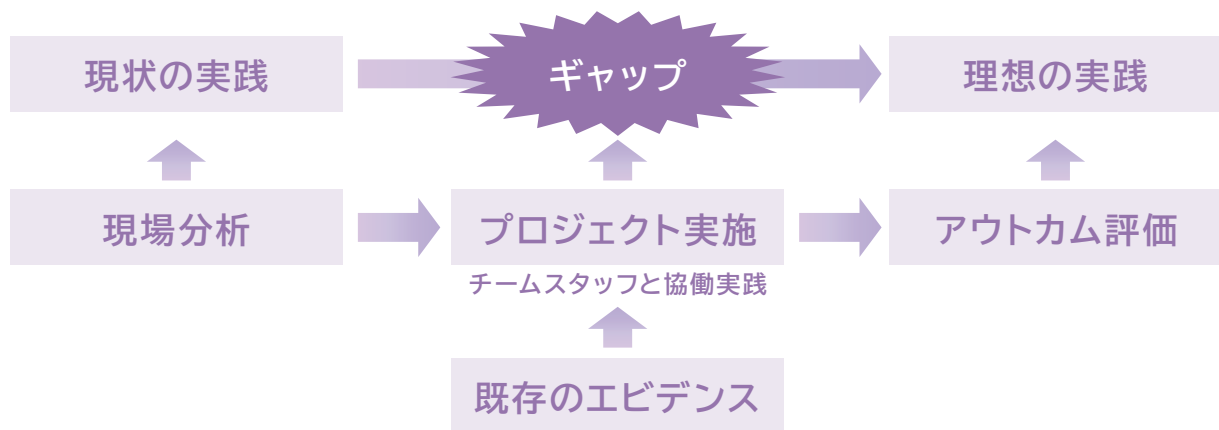
博士後期課程 DNPコース

DNPとは

DNPとはDoctor of Nursing Practiceの学位であり、DNPコースは、より良い看護実践のために既存のエビデンスを最大限に活用し変革できる実践者のリーダー・管理者の育成をめざす教育課程になります。諸外国では研究者を育成するPhDとともに、高度看護実践者として卓越した知識・技能をもち、看護実践の質向上・変革を押し進めることのできる人材を育成するDNPの教育が行われています。

DNPコースでは高度看護実践者として実装研究を推進するために必要な研究能力を身につけます。実装研究とは既存のエビデンスを実践に体系的に適用するための障壁や方法を科学的に研究するものです。現場の障壁や方法を分析し、チームスタッフと協働しながらプロジェクトを実施し、アウトカムを評価していきます。

DNPコースにおける実装研究



次のような人材育成を目指しています

DNPコースで身につける3つの能力

高度看護実践の高い知識・技能を有し、看護実践の質向上・変革を探究し続ける高度看護実践者・管理者としての能力

看護実践の質向上・変革をもたらす実装研究を推進するために、学際的視点をもった創造的な研究能力

実装的研究による組織や社会の変革を可能にするために、変革を提言しリードできる能力

カリキュラム

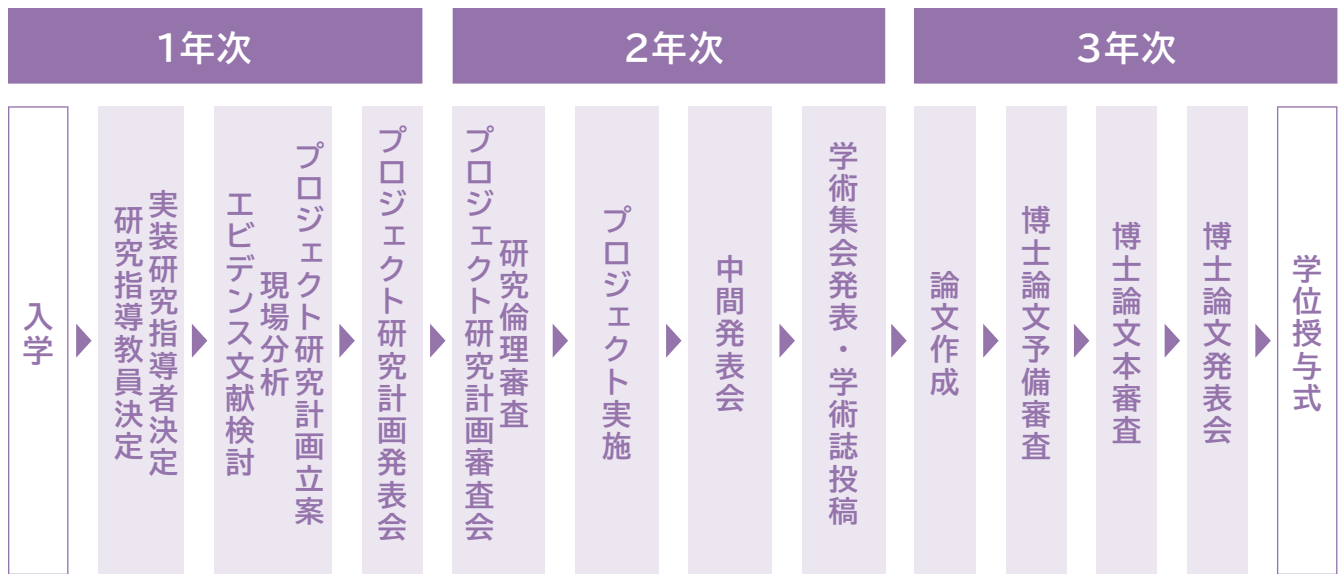
共通科目	配当年次	単位数		取得すべき単位数	専門科目	配当年次	単位数		取得すべき単位数
		必修	選択				必修	選択	
看護科学哲学	1春	2		必修 4単位 選択科目 2単位以上	DNP特論I(組織論)	1春	2		計12単位 以上
看護学研究方法論	1春	2			DNP特論II(政策論)	1春	2		
高等社会統計学	1秋		2		DNP演習	1秋	2		
看護教育学特論	1秋		2		DNPプロジェクト演習	1~3	6		

春:春学期 秋:秋学期

修了要件

博士後期課程に3年以上在籍し、所定の単位(18単位以上)を取得し、かつ必要な研究指導の下、プロジェクト計画審査および研究倫理審査を経て、論文審査および最終試験に合格すること

学位取得までの論文作成スケジュール (修業年数3年)



※学位論文申請には査読のある学術誌等に公表された論文1編以上が必要です
 ※長期履修制度利用では4年間のスケジュールになります

実装研究により現場の看護実践の質向上を目指す

黒澤 昌洋 准教授

DNPコースは、看護実践者として実践に根ざした研究能力を育成することを目的とした博士課程です。PhDコースは研究により新たな知見を生み出す、DNPコースは研究で得られた知見を現場に還元する能力を育成するということができます。

研究成果に基づく実践方法があっても現場では採用されないことを、多くの看護師が経験していると思います。DNPコースでは、科学哲学と看護研究方法論で看護学の理論的基盤と研究方法論を深め、DNP特論I（組織論）、DNP特論II（政策論）で組織変革に必要な基礎知識を学びます。そして、DNP演習、DNPプロジェクト研究では具体的に実装するエビデンスに基づく介入の検討や現場分析に基づいたプロジェクト計画を立案し、多職種と協働したプロジェクトの実施とアウトカム評価を行っていきます。

DNPコースは専門看護師やNP教育課程修了者だけでなく、看護管理者や臨床現場で組織変革を行う全ての看護実践者を対象としています。ぜひ多くの看護職の方に挑戦していただき、現場の看護実践の質向上を目指して欲しいと思います。



Senior Message

診療看護師 (NP) におけるDNPの意義 -実装研究を通じてEBPの定着化と 臨床実践の可視化

高度実践看護学領域
DNPコース

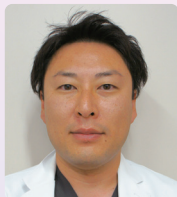
河村 佑太さん

第1学年

私は、2020年に愛知医科大学大学院修士課程を卒業し診療看護師 (NP) を取得しました。その後、2025年度に博士後期課程が開設されると聞き、進学を決意しました。

DNPコースを志望した理由は、研究を実践の場で上手く進めることができず、研究デザインや方法などの知識を深め、臨床実践に沿った研究を行いたいと考えたからです。また診療看護師 (NP) として実践をする中で、実践領域や役割の拡大に伴い、新しい取り組みやシステム変更を行う事もありましたが、関係部署との細かな調整が必要でした。DNPコースは、実装研究となるため臨床において多職種と協働しながらエビデンスを実装する方法を政策的、組織的にも学ぶことができ、臨床で実践や研究を行う診療看護師 (NP) にとって重要であると考え志望しました。

現在、博士研究としてRapid Response Systemの研究を行っています。DNPコースは、臨床に合った形で実装をしなければならないため、修士課程より更に綿密に研究計画を立て、関係各所との調整も必要になります。仕事との両立もあり非常に大変ではありますが、臨床に還元できるような研究を進めていきたいと思っています。



Senior Message

現場から制度へと広がった妊産婦支援を、 実践知の体系化と現場への実装を通してさらに 発展させ、支援の質を社会に定着させていきたい

地域看護学領域
DNPコース

西尾 和子さん

第1学年

私はこれまで地域母子保健の現場で、特定妊婦等への支援に携わってきました。現在所属する公益社団法人小さないのちのドアでは、法人の立ち上げ当初から施設長として課題を抱える妊産婦の支援に取り組んできました。特に特定妊婦の居場所づくりは当初前例のない試みでしたが、現場で積み重ねてきた実践は徐々に広がり、現在では妊産婦等生活援助事業として制度化され、全国で実施されるようになってきました。現場から始まった実践が社会の仕組みへと発展していく過程を経験したことは、私にとって大きな転機となりました。制度として広がり始めた今、次に求められているのは、支援の質を高め、それを持続可能な形で社会に定着させていくことです。そのためには、現場で培われてきた実践知を研究によって体系化し、実践の改善や普及へとつなげていくことが重要であり、現場と研究をつなぐ役割を担うのがDNPの学びであると考えています。

本コースでの学びと研究を通して、これまで培われてきた実践知を体系化し、妊産婦支援の質を高める支援モデルとして現場に実装することで、持続可能な支援体制の構築に貢献したいと考えています。



昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう配慮しています。

職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。

研究環境

■ 研究室

大学院生には、研究活動等で利用するための研究室を整備しています。一部の研究室は24時間利用可能で、パソコン、机、保管庫・ロッカーを設置しています。

■ 総合学術情報センター(図書館部門)

医学・看護学及び関連分野の学術情報を収集・管理し、教育・研究・診療を支援する専門図書館があります。図書約10万冊、視聴覚資料約700点、学術雑誌約4,000タイトルを所蔵しており、学内外を問わずどこからでも所蔵状況を確認することができます。利用にあたっては、医療情報の専門家である図書館員が検索のコツや利用上の相談にも気軽に応じます。平日は22時まで利用できることに加え、毎週土曜日及び一部日曜日も開館しており、利便性の向上に努めています。

■ 総合学術情報センター(情報基盤部門)

先進的な設備や最新のICT技術を導入し、学習支援環境の整備に積極的に力を注いでいます。課題解決(表分析、レポート作成等)などで、利用時間内であれば自由にパソコンが利用でき、操作支援やトラブルの対応には専門スタッフがサポートします。



特別講義

看護の展望や看護の探求心、知的好奇心を育成するとともに、看護職者としての意識の改革、看護に対する関心への動機付けを狙いとして、年に数回開講しています。

修了生へのサポート

本研究科では、修了生に対してのフォローアップ、キャリアサポートを目的とし『看護学部同窓会』を設置しています。『看護学部同窓会』では専用のメーリングリストを作成し、本研究科で開催するイベントの情報を発信したり、研究科担当教員及び修了生相互の情報交換の場として運用されています。



国際性

提携大学

アメリカ合衆国 オハイオ州



ケース・ウェスタン・リザーブ大学

フランシス・ペイン・ボルトン看護学部

ケース・ウェスタン・リザーブ大学は、医学・看護学の分野における教育・研究において米国内で高い評価を得ており、中でもフライトナーシングに関する分野では先進的な活動・研究が進められています。

タイ王国



マハサラカム大学

看護学部

マハサラカム大学は、タイ東北部の高等教育の中心を担う国立総合大学で、20の学部にて45,000人の学生が学んでいます。医療系に強い大学としても有名で、医学部、看護学部、薬学部、公衆衛生学部、獣医学部が互いに連携し、高いレベルの教育・研究を行っています。

シンガポール共和国



シンガポール国立大学

ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科

シンガポール国立大学は、アジアのトップ校として教育・研究をリードするハイレベルな大学です。ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科は、2016年に開設され、シミュレーションセンターや多職種連携教育などによる優秀な看護師を養成するための教育と科学的根拠を確立するための研究が行われています。

フィンランド



オウル大学

医学部健康科学センター／看護科学学科

福祉先進国フィンランドは、高齢者福祉や子育て施策など日本が抱える健康課題について多くの取り組みがなされています。

アメリカ合衆国 カリフォルニア州



サンディエゴ大学

ハーン看護健康科学学部

米国において、特に多種多様な文化を持つサンディエゴにあるハーン看護健康科学学部は、南カリフォルニアやメキシコのヘルスケアシステムに関する研究で高い評価を受けています。

国際交流

本研究科では、国際的な視野を広げることを目的に、本学の学術協定校での海外研修を実施しています。

医学・看護学において先駆的な教育・研究がなされているケース・ウェスタン・リザーブ大学(米国)や、高度実践看護師APNs教育を先導しアジアのトップ校であるシンガポール国立大学(シンガポール)をはじめ、マハサラカム大学(タイ王国)、オウル大学(フィンランド)、サンディエゴ大学(米国)といった特色ある看護実践にふれることができる海外研修の機会が準備されており、旅費の一部を助成する制度があります。

また、協定校の教員による遠隔講義や招聘講演など、日本とは異なる海外の大学院教育に触れ、海外の研究者・看護実践者と意見交換をする機会があります。

視野や交流を広げ、 看護師人生に彩を!

ケース・ウェスタン・リザーブ大学 2025

大溝 那奈さん 2025年度修了

米国の病院、施設の見学や体験、大学の講義への参加を通じて日本と米国両方の医療の素晴らしさを知る事ができました。OCPや海外研修を機に米国の方との交流ができ、今も交流は続いています。オフの日も楽しかったです。自分の視野と交流を広げるチャンスです!

Senior Message



英語で挑戦、多様性に学ぶ シンガポール研修

シンガポール国立大学 2026

森部 咲貴さん 第2学年

本研修では、現地でAPNを目指す大学院生の講義を受講し、自身の研究計画を英語で発表するという貴重な機会を得ることができました。大学院生として医療制度や文化を新たな視点で学び、シンガポールの多様性と温かさに触れて、大学外でも充実した時間を過ごすことができました。

Senior Message



微笑みの国で学ぶ 医療と文化

マハサラカム大学 2026

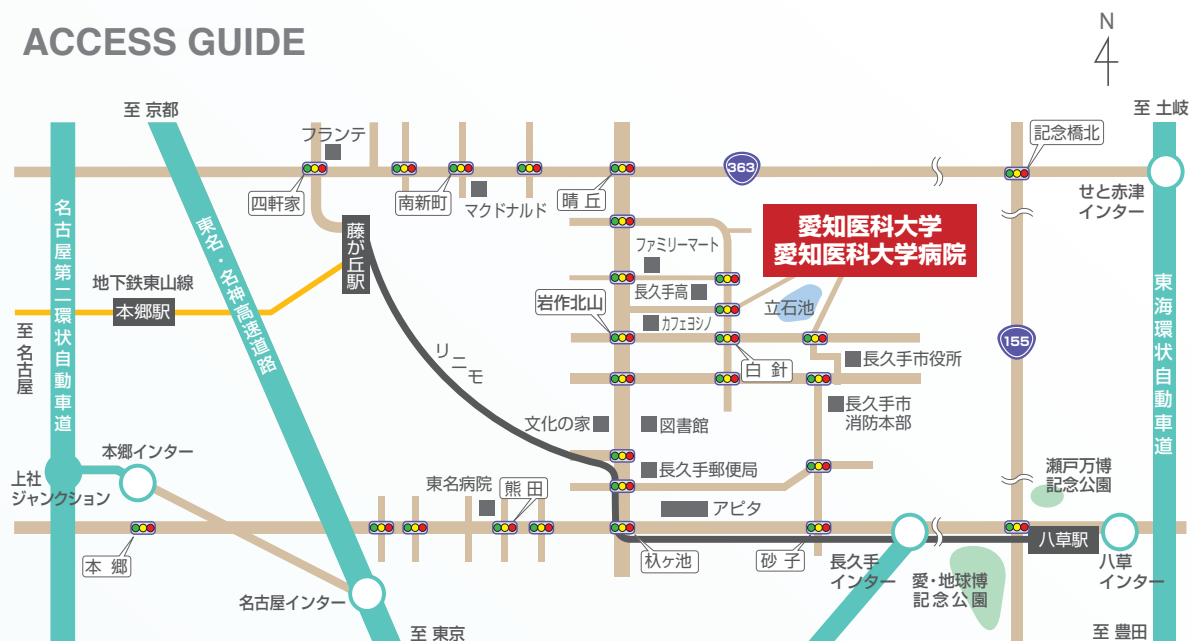
小酒井 彩香さん 第2学年

日本と異なる文化的背景をもつタイにおける周産期医療・看護の実際を学び、知見を広げることを目的に参加しました。大学での講義や産科・NICU病棟見学、伝統医療体験などを通して、タイでは医療や看護の中にも宗教観や家族観が深く根付いていることを実感し、多くの学びを得ることができました。

Senior Message



ACCESS GUIDE



■幹線道路から

- ①東名・名神高速道路・名古屋インターから車で約15分、長久手インターから車で約10分
- ②名古屋第二環状自動車道・本郷インターから車で約15分
- ③東海環状自動車道・せと赤津インターから車で約30分

■公共交通機関

名古屋駅から地下鉄東山線で「藤が丘」駅まで25分、地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分

*詳細はホームページをご確認ください。

看護学研究科 入試説明会

詳細はホームページをご覧ください

【修士課程】



【博士後期課程】



【お問い合わせ先】

愛知医科大学看護学部学務課大学院係

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL:0561-62-3311(代表) 〈直通〉TEL:0561-61-1827 FAX:0561-63-1093

E-mail: gakumu@aichi-med-u.ac.jp

URL: <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>



財団法人大学基準協会
「大学基準適合認定」